



世界の神秘としての神

有神論と無神論の論争における、十字架にかけられたお方の神学の基礎付けのために

E.ユンゲル❖著 佐々木勝彦❖訳



十字架における神の愛の神学

神を全能で不変の存在とみなす伝統的な有神論的神思想が崩壊し、「神の死」が叫ばれる時代の中で、われわれはいかにして神について思考し、神を表現することが可能になるのか？ 「神は愛である」という命題を三位一体の神の概念から徹底的に考察し、現代における新たな有神論的神概念を提示した名著。20世紀を代表する神学者エーバハルト・ユンゲルの主著の待望の翻訳！

❖著者紹介 E. ユンゲル (Eberhard Jüngel, 1934-2021) バーゼル大学でカール・バルトのもとで学ぶ。チュービンゲン大学で組織神学と宗教哲学を講じる。著書 『神の存在』(ヨルダン社、1984年)、『エーバハルト・ユンゲル説教集』(全4巻、教文館、2001-02年)、『義認の福音』(教文館、2024年)ほか多数。

❖訳者紹介 佐々木勝彦 (ささき・かつひこ) 1944年生まれ。東北学院大学文学部キリスト教学科教授、同大学キリスト教文化研究所所長等を歴任。現在、同大学名誉教授。訳書 R. A. クライン他編『キリスト教神学の主要著作』(教文館、2013年)ほか多数。

A5判・上製・736頁・定価14,080円(本体12,800円+税) ISBN978-4-7642-7498-3 C3016